

## ■ 計画策定の背景

## 1. 本市を取り巻く社会状況

- 少子高齢化と人口減少
- 財政面、人員面の制約
- 自然環境問題
- 価値観、ライフスタイルの多様化
- 熊本地震からの復興

## 2. 本市の公園の状況

- 都市公園ストックの一定の蓄積（1,078箇所、712ha）
- 老朽化施設の増加と対応（遊具、トイレ、ベンチ等）
- 厳しい財政状況

## 3. 将来の都市像

- 上質な生活都市
- 多核連携型の都市構造
- 大規模地震等の災害に対するレジリエントなまちづくり

## ■ 課題 ※限られた予算の中で様々な課題に対応する必要がある

## 1. 環境保全

水前寺江津湖公園の豊かな自然環境、文化資源をいかに保全し、次の世代につなげていくか

## 2. 利活用（魅力と質の向上）

まちなかにあるオアシスとしてのポテンシャルを活かしきれていない（観光面）

## 3. 維持管理

いかに老朽化施設の更新等をしていくか（トイレ、照明灯、ベンチ等）



## 基本理念

**生物多様性の保全とともに、  
江津湖の持つポテンシャルを最大限に発揮し、  
人にとっても生き物にとっても誰もが誇れる、  
上質な公園空間の創出を実現する**

※今後、施策事業を踏まえ、分かりやすいキャッチコピーを設定する

## 環境部会の基本方針

## 基本方針① 豊かな水環境の保全

- 長期的な地下水かん養対策
- 水質の保全・改善
- 流域のつながり（水循環）
- 地下水のPR

## 基本方針② 生物多様性の保全と自然と人との共存・共生

- 生物の生息状況の把握
- 生物の生育・生息場の保全・復元
- 外来生物の駆除
- 自然と人との共存・共生・配慮のあり方

## 基本方針③ 歴史・文化の継承と活用

- 歴史的・文化的資源の保存と活用
- 連続性・一体性の創出
- 散策ルートの設定と活用

## 基本方針④ 感じ・憩い・学び・発信する場としくみの整備

- 情報の集積
- 魅力・価値の発信
- 環境教育、体験型プログラムの整備
- 担い手づくり、次世代への継承

## アクティビティ・マネジメント部会の基本方針

## 基本方針① 「魅力」と「質」の向上

- 自然体験の場づくり
- 園内回遊性の向上
- 健康プログラムの整備
- 職場空間としての活用
- 園内情報の共有・発信

## 基本方針② 適切な公園経営・資産運用

- 民間活力の導入
- 維持管理システムの構築
- 防災・減災機能を有した整備

## 基本方針③ 運営手法と担い手づくり

- 意見交換の場づくり
- 人的資源の組織化
- 人材育成、担い手づくり
- 戦略的な広報活動

生物多様性の保全とともに、江津湖の持つポテンシャルを最大限に発揮し、誰もが誇れる、上質な公園空間の創出を実現する。

基本理念

基本方針

取組み項目

施策事業

① 豊かな水環境の保全

①-1 長期的な地下水かん養対策

①-2 水質の保全・改善

①-3 流域のつながり（水循環）

①-4 地下水のPR

地下水  
かん養地下水かん養対策の継続（水源かん養林整備事業、水田湛水事業、等）  
節水対策や雨水再利用などの持続的な啓発（グリーンインフラ導入の検討）①-1-1  
①-1-2

水質保全

硝酸性窒素対策や地下水浄化対策の継続  
河川の水質調査の継続①-2-1  
①-2-2

水循環

水源かん養林で育まれた間伐材を利用したベンチの設置  
上流域との交流イベントの実施（地下水を育む農産物や林産物の購入の促進）①-3-1  
①-3-2

情報発信

地下水について学び・楽しめるガイドツアーの実施  
地下水のめぐみ・大切さを伝える学習（講座、教材作成、サイン設置、等）①-4-1  
①-4-2② 生物多様性の保全と  
自然と人との共存・共生

②-1 生物の生息状況の把握

②-2 生物の生育・生息場の  
保全・復元②-3 外来生物の駆除  
（駆除方法の検討）②-4 自然と人との共存・共生・配  
慮のあり方（ゾーニング）

状況把握

希少生物や外来生物の生育・生息状況の調査と把握（他地域とのつながり）  
魚類生息状況調査の継続②-1-1  
②-1-2保全  
復元自然環境の保全（現在の保護区の再整備）  
エコトーン（生物の生育・生息空間）の復元及び再生手法の検討（シードバンクの活用など）②-2-1  
②-2-2外来種  
対策徹底的な外来生物の駆除（ボランティアの育成及び連携）  
外来生物の廃棄方法の適正化（堆肥化、食品化、再利用）②-3-1  
②-3-2共存  
共生自然と人が共存・共生・配慮するゾーニングの設定  
江津湖の再整備（遊歩道、舗装材、照明灯、樹種）②-4-1  
②-4-2

③ 歴史・文化の継承と活用

③-1 歴史的・文化的資源の  
保存と活用

③-2 連続性・一体性の創出

③-3 散策ルートの設定と活用

調査研究  
保存  
活用旧砂取細川邸庭園の市指定文化財への指定と保存・活用  
既存文学碑の管理・活用計画の策定  
国指定天然記念物「スイセンジノリ発生地」の保護増強  
庭園等の管理計画策定による景観コントロール③-1-1  
③-1-2  
③-1-3  
③-1-4

整備

ストーリー作り、それと連動した共通サインや照明灯の整備  
散策ルートマップの作成、誘導サインの整備③-2-1  
③-2-2

発信

散策ルートの設定とガイドツアーの実施  
「漱石の道（仮称）」の顕彰と活用③-3-1  
③-3-2④ 感じ・憩い・学び・発信  
する場としくみの整備

④-1 情報の集積

④-2 魅力・価値の発信

④-3 環境教育、体験型プログラ  
ムの整備④-4 担い手づくり  
次世代への継承

情報集積

江津湖の歴史・文化遺産の継続的な調査・研究と資料の集積  
江津湖の環境に関する情報の収集・集積と不足する調査の実施④-1-1  
④-1-2

発信

江津湖の情報を集積・発信するビジターセンター（仮）の設立  
展示コーナーの設置④-2-1  
④-2-2

教育

江津湖の自然を親しみ・楽しみ・理解する観察会等の実施  
江津湖の魅力や価値を伝えるガイドマップや教材等の作成④-3-1  
④-3-2

継承

江津湖の自然を守るガイドブックの作成（外来種の駆除方法、在来種の解説、等）  
自然観察会や歴史・文化巡りを通じて新たな担い手や語り部を育成（いきもんネットの活用）④-4-1  
④-4-2